

令和5年度

施政方針及び予算編成方針
並びに提案理由説明書

(令和5年亀岡市議会定例会3月議会)

令和5年2月24日

令和5年3月議会に、議員各位の御参集を賜り、誠にありがとうございます。
います。

最初に、去る2月6日にトルコ南東部及びシリア国境付近で発生した大規模地震により、甚大な被害が発生いたしました。亡くなられた方々におくやみを申し上げますとともに、多くの被災者の皆さまに心からお見舞いを申し上げます。

まず、1月22日に執行されました市議会議員一般選挙におきまして、市民の皆さまの信託を受けて当選されました議員各位に対し、改めまして心からお祝いを申し上げます。新時代を迎えようとする亀岡市の更なる発展に向けて、一層のご尽力を賜りますようお願い申し上げます。

さて、本議会において令和5年度の予算案及び関連議案のご審議をお願いするにあたり、市政運営に対する私の所信を申し述べさせていただき、議員各位及び市民の皆さまのご理解、ご協力を賜りたいと存じます。

令和元年11月、私が市民の皆さまからご信任を賜り、2期目の市政運営を担わせていただいていたから、早や3年余りが経過いたしました。2期目に臨むにあたり、私は、「健康・環境・観光 多文化共生のまち亀岡 世界に誇れる環境先進都市の実現」をスローガンに、新たに8つの挑戦を掲げ、これを基本政策として市民の皆さまとともに、亀岡新時代の創造に向け、市政のかじ取りを進めてまいりました。

しかし、2期目のスタートと時を同じくして、令和元年12月に中国

で発生した新型コロナウイルス感染症は、瞬く間に世界中に拡大し、いまだ終息することなく3年が経過しております。その間、私は市民の皆さまの命と健康を守るため、現場で働く医師・看護師・介護職員などエッセンシャルワーカーの皆さまの懸命なご努力に支えられながら、全力で感染予防対策に取り組むとともに、コロナ禍の厳しい環境におかれた事業者や市民の皆さまを支えるため、さまざまな支援策を講じることで、感染拡大防止と社会経済活動の両立に全力を尽くしてきたところがあります。そして、この長期にわたるコロナ禍も、来たる5月8日には感染症法上の分類が引き下げられることとなり、ようやく出口が見えてまいりました。ウィズコロナ時代に向けて、新しい日常への移行を進めていかななくてはならない時を迎えています。

一方、世界情勢に目を向けると、昨年2月に始まったロシアによるウクライナ侵略により、国際秩序が根底から揺らぎ、平和と人権が蹂躪され、貴い人命や生活の安寧が奪われる事態が続いています。また、それを発端とした世界規模でのエネルギー・食料危機、そして急速に進展した円安による物価高などが、市民生活にも深刻な影響を及ぼしています。

このような情勢の中で、私は常に市民の皆さまの声に真摯に耳を傾け、亀岡市が「人と時代に選ばれるまち」となるよう、さまざまな分野において将来につながる種を蒔いてまいりました。そして今、それらが芽吹き、亀岡新時代の到来を感じることができるようになってまいりました。

迎える任期最後の年、コロナ禍で顕在化した新たな課題、環境の変化や多様化する市民ニーズに的確に対応する、しなやかさを持った市政により、市民福祉の向上とさらなるまちの魅力増進に向け、全力を尽くしてまいり所存でございます。

このような思いのもとに、令和5年度の施政方針として、4つの項目について申し述べたいと存じます。

1つ目は、世界に誇れる環境先進都市の取り組みです。

私は、市長就任後、すぐに「世界に誇れる環境先進都市」の実現を目指すビジョンを示し、市政の根幹の一つに環境を置きながら、「亀岡ゼロエミッション計画」策定、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」、そして全国初となる「亀岡市プラスチック製レジ袋の提供禁止に関する条例」の制定を行いました。この先進的な取り組みは全国に一石を投じ、多くの方に「環境先進都市かめおか」を認知していただけるきっかけとなりました。また、環境を中心に、かめおか霧の芸術祭をイノベーションハブとして、教育・文化・農業・観光などをつなぐ持続可能なまちづくりへの取り組みが評価され、内閣総理大臣からSDGs未来都市にも選定いただきました。令和5年度は、環境先進都市を目指す取り組みをさらに前進させ、環境の情報発信や交流の拠点施設の整備を進めるとともに、ゼロエミッション計画に沿った資源循環の取り組み強化、脱炭素社会に向けた再生可能エネルギーの導入や公用車のEV車活用に取り組

んでまいります。

また、このような環境先進都市の取り組みが、全国の多くの皆さまに亀岡を知っていただき、そして応援していただくことにつながり、令和4年度のふるさと納税は、1月末現在で、約9万8千件の寄附を頂戴し、昨年度を上回る33億円、そして私が市長就任後7年間で100億円を超える寄附をいただいております。この応援を、さらに本市の魅力を高めるまちづくりに活用することで、より多くの皆さまに亀岡を継続して応援していただけるよう取り組みを進めてまいります。市内事業者への経済効果を含め、今後もふるさと納税取扱業者や返礼品等の拡充に努め、ふるさと納税制度を通して本市及び本市産品の魅力を全国に発信するシティプロモーションを展開してまいります。

次に2つ目は、子どもファースト宣言に係る取り組みです。

昨年8月22日、亀岡市は“子ども”と“子育てを頑張る人”を本気で応援する「子どもファースト」を宣言しました。子どもの未来はわがまちの未来、子どもの未来は、日本の未来、子どもを応援することが持続可能な輝かしい世界につながります。より良い子育て環境充実に向け、子育て支援対策を加速度的に進めてまいります。京都府初の事業として、4つの子どもファースト事業について所得制限を設けず、全てのご家庭を対象に実施することとしました。

まず、子どもファースト宣言第1弾の取り組みとしては、市内全ての

保育園・幼稚園・こども園で、おむつの提供と処理を市が無償で提供する事業です。これはすでに昨年11月から実施しており、今後は本市と協定を結ぶ紙おむつメーカーと連携し、使用済み紙おむつの再資源化に取り組めます。将来的には市内高齢者施設の使用済み紙おむつも市で回収し再資源化することで、環境先進都市の取り組みに繋げていきたいと考えています。

次に、保育料第2子以降全て無償化の取り組みです。これは、本年4月から実施する予定としています。

また、放課後児童会の一家庭2人目以降無償化と、平日午後7時までの時間延長、土曜日、日曜日、祝日の実施予定です。保護者が安心して仕事と子育ての両立ができるようサポートいたします。また、子どもたちが安心して過ごせるようサービスの充実を図り、新たに「かめおか児童クラブ」として、4月からスタートいたします。

さらに、こども医療費助成の18歳までの拡大と無償化の実施です。中学校卒業からは児童手当の支給など公的支援が減少するため、経済的負担が大きくなることから、こども医療費助成の対象を18歳までに拡充し、全ての子どもが自己負担額なしで受診できるようにします。この事業は本年9月から実施する予定です。

これら第1弾事業と合わせて、新年度から、子どもファースト宣言第2弾を実施いたします。子育て支援をもう一步進めるため、全ての子ども

もたちへ所得制限を設けず京都府一の子育て施策に取り組みます。

まず、多子世帯の高校生が安心して学びに専念できるよう、所得要件により、国で実施されている高等学校等就学支援金の対象となっていない家庭の、2人目以降の高校生に、公立高校授業料相当分を支援いたします。

また、コロナ禍で不登校となった児童生徒の学びの機会を確保するとともに、社会的自立を支援するため、市が認定したフリースクールに通う児童生徒の授業料を補助いたします。

その他、修学旅行における平和学習補助事業、母子保健と児童福祉双方の相談機関のより一層の連携強化を図る「こども家庭センター」の開設に向けた整備や、ヤングケアラー支援体制の強化などを実施してまいります。

それから、子どもたちが木のぬくもりを感じながら遊ぶことのできる場所づくりと、子育て世代が集い、交流することができる場、そして癒しを感じることができる木育空間として、サンガスタジアム内に木育ひろば「KIRI no KO（きりのこ）」を4月22日に開設いたします。令和2年11月に開設し、今月には入場者数10万人を達成した「かめまるランド」と合わせ、子育て支援の拠点施設として、市民には自己負担額なしで使っていただけるように取り組みます。京都府一の子育て環境を実現するために、今後もチャレンジしていきたいと思っております。

また、令和6年4月「亀岡市立育親学園」の開校を予定しています。この地域の特色である自然や地域資源を活かした学園づくりを目指してまいります。特に2つある森の自然こども園との教育的つながりを大切に、本市2校目となる小中一貫の義務教育学校として、新たなる特認制度を創設し、ふるさとをいつくしむ豊かな心と未来を創造する力を育む、子どもたちの学び舎を作ります。特に、自然豊かな風土を活かしたふるさと体験や環境学習の実施、自校方式でオーガニック給食をテーマとした食育の充実に取り組んでまいります。

次に、施政方針の3つ目は、オーガニックビレッジ宣言に係る取り組みです。

本年2月12日に「オーガニックビレッジ宣言」を全国で2番目に行いました。現在、国ではみどりの食料システム戦略を踏まえ、有機農業に地域ぐるみで取り組む産地を支援する事業が始まっています。亀岡市でも、次代を担う子どもたちに豊かな自然と食、農を引継ぐためにみどりの食料システム戦略に取り組み、亀岡市有機農業推進協議会において、令和5年度から5年間を計画期間とする亀岡市有機農業推進実施計画を策定し、米を始めとする有機農産物の給食への導入や、生産者の育成などの事業を通じて有機農業を推進してまいります。

本市は、古くから「京の台所」として、また、現在でも京野菜の主要産地として、京都の農業において大きな位置を占めています。そのよう

な中、持続可能な食と農を生産から消費までの食料システム全体で構築していくために、本市の特徴を活かした取り組みを積極的に進めてまいります。

そして現在、有機米給食を実施しているモデル小学校1校に加え、16小学校及び1義務教育学校の全校において、学校給食で有機米米飯を年間20回程度提供します。合わせて有機野菜給食の導入に向けた支援も実施いたします。

さらに、京都では初となる有機農業「学校」を開設し、有機農業を始めたい農家に通年で技術を学んでいただける育成プログラムを提供することで、有機農業に取り組む農家を増やしてまいります。

また、京都・亀岡保津川公園を、アユモドキとの共生を図るシンボルとして、オーガニックビレッジ公園として位置づけ、有機農業の拠点としていくとともに、台風や局地的豪雨などの自然災害時には、洪水調整機能等を有するグリーンインフラとしても活用できるものとしていきます。

次に施政方針の4つ目、まちのにぎわいづくりについてです。

亀岡市においては、平成11年から令和2年まで、転入より転出が多いことによる人口の社会減が続いておりました。しかし、令和3年は22年ぶりに転入者数が転出者数を48名上回ることとなりました。令和4年につきましても転入者数が転出者数を138名上回る状況となっ

ております。こうした転入超過の継続・拡大を図っていくことが亀岡市の活力につながります。

昨年、京都サンガF.C.が、J1に昇格したことにより、ホームゲームに1試合平均約1万5百人、年間約23万2千人のサポーターの皆さまが観戦に亀岡を訪れました。同日に開催されていた「かめおかecoマルシェ」にもたくさんの方にお越しいただいております。サンガもJ1で2シーズン目を迎えます。2023シーズンは、サンガのさらなる活躍により、昨年を上回るサポーターの皆さまをお迎えし、亀岡駅北のみならず駅南周辺地区も巻き込んだまちの活性化に取り組んでまいります。

そして、スタジアム建設地を含む亀岡駅北土地区画整理事業が昨年11月に竣工し、現在2つ目となるホテルの建設も進んでおり、かめきたサンガ広場を中心に新しいまちなみが創出されてきています。さらに、大井町南部土地区画整理事業も昨年12月に竣工、そして現在まだ事業実施中ではありますが、高野林小林土地区画整理事業も工事が進んでおり、それぞれ商業施設や住宅等が建設され、着実に新しいまちづくりが進捗しています。

次に、亀岡市、そして亀岡商工会議所の新たな挑戦となる「オープンイノベーションセンター・亀岡」が京都先端科学大学との連携により本格始動いたします。大学の有する最先端の学術的、専門的知識、技術、

人材という資源及び当連携事業で新たに整備する研究施設等を活用し、地域企業の技術的課題の解決、人材育成支援を図り、次代をリードする新産業を創出することで、地域産業の活性化を図ってまいります。さらに、こうした企業支援体制をPRすることで、篠の企業団地や亀岡インター周辺西地区をはじめ、今後市内で計画される同種の区画整理事業を実施する地区に、着実に企業誘致を推進してまいります。

そして、亀岡市、南丹市、京丹波町の2市1町は、2026年秋に国内最大級の緑のイベントである全国都市緑化フェアの共同開催誘致に向け、昨年9月に京都府知事へ開催要望を行い、11月にはフェアの所管省庁である国土交通省の現地ヒアリングを受け、開催候補地として内諾を受けたところです。今後は、国土交通大臣同意を得るための基本構想の策定を進めてまいります。フェア開催中には、皇室をお迎えする中心行事「全国都市緑化祭」も開催されます。2市1町の異なる自然環境を活かした、山から里・まち・公園へとつながる森林や草木、「花と緑」を“まるごと”楽しみ、新たな価値観を共有できる全国都市緑化フェアを開催することで、京都丹波地域の原風景、歴史や文化、芸術、食を含めた魅力を再発見していただくとともに、この「京都丹波」を広く全国に発信していきたいと考えております。

亀岡市では、夢コスモス園も含めた亀岡運動公園をメイン会場に、かめきたサンガ広場から京都・亀岡保津川公園をサテライト会場と位置付

け、その整備に向けての取り組みも順次進めてまいります。さらに、かめおか霧の芸術祭とも連携し、花と緑の空間とアートが融合する祭典としてまいります。また、森の京都DMOが計画策定を行い、国土交通省のガーデンツーリズム制度に登録が決定した「森と里山の庭園」を軸としたガーデンツーリズム計画とも連携することで、2市1町それぞれのフェア会場への周遊にも繋げてまいりたいと思います。

これまで述べてきた、さまざまなまちづくりへのチャレンジやシティプロモーションの成果が表れだし、コロナ禍により少し遅れていた亀岡新時代の幕開けが始まろうとしています。まさに、今、亀岡が多くの方に選ばれている、この良い流れをさらに加速し発展させるとともに、未来に繋いでいくために、亀岡市を次のステージへと引き上げる挑戦を果敢に進め、市民の皆さまに誇っていただける「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡」の実現に向け、全力で取り組んでいく決意でございます。

こうした市政運営の基本方針に基づき、令和5年度予算は、健全な財政運営を維持しつつ、「主役は市民一人ひとり」のまちづくりを進めていくための予算編成を行ったところであります。

それでは、ここに提案いたしております議案の概要につきまして、御説明申し上げます。

第1号議案から第40号議案までは、一般会計をはじめ各特別会計の

令和5年度予算でございます。

まず、第1号議案の一般会計予算は、総額391億4千4百万円、対前年度比2.2%の増額予算としております。

第2号議案から第10号議案までの9議案は、国民健康保険事業特別会計ほか8特別会計の令和5年度予算でございます。予算総額は、314億6千4百万円、対前年度比4.2%の増額予算としております。

令和5年度予算は、「子どもファースト宣言」の積極的な展開を本市の成長への原動力とし、誰もが住みやすいまちづくりを加速するとともに、将来にわたって持続可能な財政運営を図ることを基本としたうえで、市民に真に重要かつ優先度の高い事業について予算を計上したところでございます。

その主要事業につきまして、第5次亀岡市総合計画の分野別基本方針に基づき御説明申し上げます。

1 互いを認め合う、ふれあいのまちづくり

誰もが互いを尊重し、認め合いながら、いつまでも幸せに住み続けられる、人権と平和が根づくまちづくりを進めるため、人権文化を醸成させるべく、人権啓発推進経費に6百万円を計上しております。そして、子ども達の「志（こころざし）」で繋ぐ平和な世界を目指す取り組みや、「将来にわたり平和を希求する心」を育むため、平和学習をテーマとす

る修学旅行の支援を中学校・義務教育学校に加え、小学校・義務教育学校へ拡充いたします。また、市内中学生を海外派遣し、異文化を体験・体感する機会を設けることで、未来を担う世代の国際意識向上に繋げてまいります。

次に、多種多様な人たちの人権と個性が尊重される社会の実現を進めるため、パートナーシップ宣誓制度の普及やシンボルマークを活用した啓発に要する経費など、男女共同参画推進経費に8百万円を計上しております。また、人権を守り育むコミュニティ拠点施設である東部児童館の建設に伴う経費などとして、地域振興事業費に6千7百万円を計上しております。

さらに、地域活力の向上や維持を目的とし、さらなる移住者獲得と定住促進を図るための経費や在住外国人の方々にも過ごしやすいまちづくりを目指し、各種相談支援体制に要する経費を計上しております。

2 安全で安心して暮らせるまちづくり

行政と地域住民など多くの主体との協働による「地域の安全をみんなで守るまちづくり」をさらに推進するため、我が国初のセーフコミュニティ国内認証取得に係る経費などを、セーフコミュニティ推進事業経費に5百万円を計上しております。

次に、災害発生時において迅速かつ確実に必要な情報を把握し、的確

な避難行動を判断できる市民意識の醸成等を目的として、防災士養成事業に係る経費や、安全な避難環境を確保するため、車中避難可能な避難場所の整備に係る経費など、災害対策経費に1億6千3百万円を計上しております。さらに、地域防災の要である消防団活動のため、ポンプ格納庫の整備や小型動力ポンプ積載車の増強配備などに要する経費などを計上し、防災対策・減災対策に積極的に取り組んでまいります。

3 子育て・福祉・健康のまちづくり

子どもファースト事業を積極的に展開し、子育てに優しいまちの実現を加速化するため、「こども医療費18歳まで無償化」や「保育料第2子以降無償化」など所得制限を設けず、子育て世帯のさらなる負担軽減に努めるとともに、多子世帯を応援する施策を推進してまいります。

さらに、かめおか児童クラブにおいても、所得制限を設けず、一家庭2人目以降の負担金を無償化するとともに、開設日や受け入れ時間の拡充など、安心して子育てできる環境を充実させるための経費をかめおか児童クラブ運営経費に、3億9千5百万円を計上しております。また、保育所などで使用する紙・布おむつの提供・処理の無償化を実施し、衛生面への配慮や保護者の経済的負担、保育士の労力を軽減してまいります。

そして、市立保津保育所につきましては、認定こども園に移行し、多様化する保育ニーズに応えるとともに、「亀岡型自然保育」の充実など安全で特色ある保育環境を実現する経費として、保津保育所移転整備事業経費に5億3百万円を計上しております。

さらに、妊娠期から出産・子育てまで一貫した伴走型の支援と経済的な支援を一体的に実施する出産・子育て応援給付金事業や、こどもまん中社会の実現に向けたこども家庭センターの整備、ヤングケアラーの実態調査などに要する経費を計上し、子ども達の心身の健やかな育ちを支えてまいります。

次に、誰もが健康で安心しながら、いきいきと暮らせるまちづくりを目指し、高齢者の自立支援、重度化防止等における取り組みを促進するため、高齢者のボランティアポイント制度のモデル事業を実施する経費として、保険者機能強化推進事業経費に8百万円を計上しております。

また、地域共生社会の実現に向けて、重層的支援体制整備事業実施計画を盛り込んだ「地域福祉計画」の中間見直しに要する経費などを地域福祉計画推進経費に5百万円を計上しているほか、敬老乗車券事業をはじめとする高齢者のいきがい対策事業や、個々の適性に応じて自立した生活を支援する障がい者福祉サービス事業などを、それぞれの経費に計上しております。

次に、健康づくり・医療・感染症対策であります。市立病院におい

ては、令和5年度から訪問看護ステーションを開設し、今後高齢化に伴い増加が予想される在宅医療に対応していくなど、良質な医療の安定的提供及び経営健全化等に取り組み、引き続き、地域医療機関との連携及び医療体制の充実を図ってまいります。

次に、新型コロナウイルス等感染症予防対策を推進するとともに、「かめおか健康プラン21」に基づき、市民の健康増進に資するため、がん検診の受診率向上に努めるなど、各種保健事業を推進してまいります。また、感染症予防のため、予防接種法に基づき予防接種を実施しており、子宮頸がん予防のためのHPV9価ワクチンの接種や勧奨の差し控えにより、接種機会を逃した方への対応についての経費を含み、予防接種経費に3億2千3百万円を計上しております。

4 豊かな学びと文化を育むまちづくり

次代を担う子どもたちの心身の健康と確かな学力の向上を図るとともに、志高く心豊かでたくましく、生きる力や郷土愛を育む教育を推進するため、さらなる教育環境の充実・安全確保を推進してまいります。

まず、子どもファースト事業第2弾としまして、一家庭2人目以降の高校生の授業料を支援し多子世帯を応援する取り組みを、就学奨励経費に1千万円を計上するとともに、市認定フリースクールの授業料を支援し、児童生徒の教育を受ける機会を確保する取り組みなどの経費を不登

校対策経費に6百万円を計上しており、いずれの取り組みも所得制限なしで実施してまいります。

次に、市内の全小・中学校・義務教育学校の学校図書館へ新聞を配備し、情報活用力などを育む取り組みや、個別最適な学びを推進するため、本市独自の学力調査の実施や、小学校新入学児童用のタブレットの配備、さらに授業支援ソフト「ロイロノート」の導入などをそれぞれの経費に計上しており、子どもたちの豊かな「学び」を支えてまいります。

また、学校規模適正化における市立育親学園の設置について、令和6年4月1日の開校を目指し、施設整備やスムーズな移行に向けた学校間での交流事業の実施やスクールカウンセラーの配置などの経費を計上しております。

そして、小学校及び中学校施設の安全でより良い環境整備をさらに推進するため、蕨田野小学校校舎屋上防水改修事業をはじめ、小学校費、中学校費の学校建設事業費に、あわせて7千5百万円を計上しております。

次に、生涯学習の拠点施設であるガレリアかめおかの適正な管理のため、施設の長寿命化対策を継続的に推進するための改修工事の経費1千9百万円を含め、生涯学習推進経費に3億2千6百万円を計上しております。

また、図書館（中央館）においては、市民の生涯学習と教育・文化の

拠点にふさわしい魅力ある読書環境とするための改修工事に要する経費を、図書館整備事業費に3億3千4百万円を計上しております。

次に、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会のレガシーを継承する取り組みや、スタジアムのあるまちとして、わがまちサンガ応援隊を中心に市民の気運を高め、まちの活性化に繋げる京都サンガF.C.と育むシビックプライド醸成プロジェクトの実施など、スポーツを活かした地域づくりに係る経費などを生涯スポーツ振興経費に2千3百万円を計上しております。

次に、文化の薫るまちづくりを推進する取り組みとして、文化芸術の力を加え、人と地域の魅力を育てるため実施する「かめおか霧の芸術祭」に係る経費などとして、文化振興経費に2千百万円を計上しております。

また、文化財のデジタルデータ化に取り組み、歴史や文化を体験できるメタバース空間の提供に係る経費などを、デジタル文化資料館運営経費に1千万円を計上しております。

5 地球にやさしい環境先進都市づくり

まず、「かめおか脱炭素宣言」の実現に向け、脱炭素先行地域として再生可能エネルギーの導入促進区域の設定に取り組むための経費などを、環境にやさしいまちづくり推進経費に1千8百万円を計上しております。

次に、「かめおかプラスチックごみゼロ宣言」関連施策として、

ペットボトルの削減とマイバック・マイボトルの持参の普及促進や給水スポットの普及拡大、そして、これらの取り組みをこの亀岡から世界に向けて発信する環境政策情報発信・交流拠点施設の整備に要する経費などとして、環境先進都市推進事業経費に1億百万円を計上しております。

また、環境美化活動の推進のため、エコウォーカー活動の充実や本市が誇る保津川をとおして「環境の大切さを思う心」を育む環境体験学習を小・中・義務教育学校で取り組む経費などをそれぞれの事業に計上しております。

さらに、ごみを出さないまちづくりを目指して、亀岡市ゼロエミッション計画のもと、プラスチック使用製品を分別収集し、資源化を推進するなどの分別区分の拡大や生ごみの堆肥化による資源循環推進の取り組みなど、資源循環システムを構築し、サーキュラーエコノミーを推進する経費などとして、ごみ減量・資源化等推進事業経費に1億2千5百万円を計上しております。

次に、緑がもたらす快適で豊かな暮らしがあるまちづくりを推進するため、令和8年に「(仮称)全国都市緑化フェア in 京都丹波」の開催に向けて、南丹市・京丹波町を含む2市1町と京都府が連携・協力し、事業を推進するための経費を公園緑地整備事業費、緑花推進経費に計上しております。

6 活力あるにぎわいのまちづくり

次代をリードする新産業を創出するまちを目指すため、京都先端科学大学、亀岡商工会議所との産学公連携拠点「オープンイノベーションセンター・亀岡」の整備運営や、サンガスタジアム by KYOCERAをフィールドとする新たなビジネスモデルの創出を支援し、また、企業の立地を促進することによる地域経済の活性化と雇用機会の創出、ものづくり産業の振興、商店街等のにぎわいづくり事業をはじめとする各種事業など、商工業振興対策経費に2億6千7百万円を計上しております。

次に、光秀公のまち、豊かな自然、文化、食などを活かした観光振興につきましては、フィルムコミッションによる世界を見据えたシティプロモーションの取り組みや50回目を迎える亀岡光秀まつりをはじめとする各種事業の実施、さらにトロッコ亀岡駅南側の整備により、にぎわいづくりと利便性の向上に取り組む経費などを、観光推進経費に9千9百万円を計上し、コロナ禍からの反転攻勢に向けた観光振興・地域経済活性化・交流人口の増加に繋げてまいります。

次に、オーガニックビレッジ宣言に基づき、有機農業学校による育成プログラムの実施や、市立小学校・保育所・こども園などでの有機米等給食の導入支援及び有機JASの認証支援、土壌分析に係る費用の支援など、有機農業の推進を図り、持続可能な食と農を生産から消費まで食料システム全体で進めてまいります。また、本市のふるさと納税返礼品

としても高い人気を誇っている「亀岡牛」のブランド振興を強化する経費などとして、畜産振興関係経費に3千6百万円を計上しております。

そして、豊かな森を育てる森林環境を整備するため、森林経営管理制度の推進や、林業機械の導入を支援していくとともに、「ウッドスタート宣言」に基づき、幼少期から木に親しめるように、木材を活用した木育おもちゃ等を新生児に誕生祝品として贈呈する取り組みなどの経費を、森林活用推進事業経費に4千5百万円を計上しております。

7 快適な生活を支えるまちづくり

活気に満ちた都市活動と安全・安心で快適なまちづくりを支える強靱な道路網を計画的に整備してまいります。そういった中、広域幹線道路の整備促進と、市内の地域幹線道路の整備につきましては、生活幹線道路を中心に、緊急性の高い箇所から重点的かつ計画的な道路整備を進めていくこととし、地域防災力の強化の観点や、児童・生徒の通学路、また、生活幹線道路の安全対策を中心に、篠ランプ9号線や南金岐土田線など、道路新設改良事業費に3億4千5百万円、道路維持経費に1億1千8百万円を計上しております。

また、地域ニーズに即したコミュニティバス、ふるさとバスをはじめとする市内公共交通における利便性の向上や、地域主体型交通の支援における、交通空白地域の解消及び交通ネットワークの構築等を図るため、

バス交通関連経費に1億4千万円を計上しております。

さらに、近年の多発、激甚化する自然災害に対する備えとして、河川の土砂浚渫等を実施する経費を河川維持経費に1億1千3百万円を計上しております。

次に、水道事業につきましては、市民生活と都市機能を支えるライフラインとして、安全でおいしい水の安定供給を行うため、老朽管耐震化工事を実施いたします。また、下水道事業につきましては、年谷浄化センター改築更新工事をはじめ、同センターにおいて発生する消化ガスを再生可能エネルギーとして、官民連携により発電事業に活用する取り組みなど、公共用水域の水質保全と生活環境の改善に努めてまいります。

これらの特別会計につきましては、常に経営状況の公表、及び事業経営の点検・評価を行うとともに、持続可能な事業運営を視野に経営健全化に取り組んでまいります。

また、JR亀岡駅の駅南周辺地区において、歴史や風土、景観に配慮した魅力あるまちづくりを進めるため、城下町エリアの歴史的なまちづくりへの取り組みや、景観を活かした道路整備を行うための経費や、また、市街地形成の促進、良質な住宅及び宅地の供給促進における経費等を、それぞれ計上しております。

次に、情報・通信の分野におきましては、デジタルファースト宣言に基づき、行政手続きのオンライン化をはじめとした自治体DXを推進し、

より質の高い行政サービスを提供してまいります。また、Web媒体を戦略的に活用し、本市の認知度を向上させ、ブランド価値を高める経費などとして、広報経費に3千3百万円を計上しているところであり、市民の皆様への情報提供をはじめ、観光地への誘客、移住・定住、企業誘致など「人と時代に選ばれるリーディングシティ亀岡」のシティプロモーションを積極的に推進してまいります。

8 効率的で持続可能な行財政運営

「SDGs未来都市亀岡」として、「誰一人として取り残さない」という理念のもと、持続可能な行財政運営に繋げていくために、この理念に沿ったまちづくりを市民の皆様と共に考え、創り上げていく取り組みなどの経費を、SDGs推進経費に2百万円を計上しております。

次に、行政運営の効率化や協働化と、財政運営の健全化に取り組んでいる中、公共施設等総合管理計画に基づく公共施設の効果的な活用や効率的な維持管理の推進や、民間との連携によって民間のノウハウを活用し、行政課題の解決に繋げる取り組みなどを推進してまいります。

次に、歳入の根幹をなす市税の収入確保につきましては、市民税・固定資産税などのコンビニ収納や口座振替、スマートフォン決済やクレジットカードによる収納を継続して実施するなど、より市民サービスの向上を図るとともに、京都地方税機構との連携により、引き続き収納率

向上に努めてまいります。

さらに、市内外から多くの方々に御寄附を頂いております「ふるさと納税制度」につきましては、引き続き、多くの御支援をいただけるように努め、寄附金30億円+ α （プラスアルファ）を目指すとともに、地元産品である返礼品の充実を図り、地域経済の活性化を進めてまいりたいと考えております。

以上が第5次亀岡市総合計画の分野別基本方針に基づく、主要事業の概要でございます。

続きまして、一般会計の主な歳入予算につきまして御説明申し上げます。

はじめに、市税収入でございますが、ウィズコロナのもと、経済活動への制約が徐々に緩和される中、景気は緩やかに持ち直すと見込まれるため、市税全体として対前年度比2億4千2百万円増、当初予算として101億7千7百万円としているところです。

次に、地方交付税におきましては、国の地方財政計画を考慮し、交付額ベースで対前年度同額の77億円を計上しております。

譲与税、交付金関係につきましては、京都府からの資料などに基づき、伸び率などの増減を見込み、全体として対前年度では、2億9百万円の増収を見込み、譲与税、交付金の合計で28億4百万円を計上しております。

使用料及び手数料につきましては、引き続き受益者負担の原則と公平性確保を基本とし、収入確保及び利用率の向上対策を進めることとし、前年度実績を勘案し計上しております。

分担金及び負担金、国・府支出金につきましては、それぞれの事業計画に基づき、精査を行い計上しております。

繰入金につきましては、令和4年度も前年度に引き続き、2年連続で30億円の大台を超える御寄附をいただきました「京都・亀岡ふるさと力向上寄附金」を原資とした基金繰入金を、寄附者の意向に沿った各種事業の推進に活用させていただいており、本市の新たな挑戦への力強い支えとなっているところでございます。そのお陰もありまして、財政調整基金からの繰入金につきましては、前年度に引き続き1億円の計上とされているところであり、その他の特定目的基金の趣旨に沿った活用とあわせまして、基金繰入金を37億3千2百万円計上しております。

市債につきましては、実質的な交付税措置である、臨時財政対策債を2億円、その他分を19億9千2百万円計上し対前年度4億7千万円減としているところであり、将来世代に負担を先送りしないよう、元金償還額を上回らない市債発行の抑制に努めております。

特別会計につきましては、設置目的に応じて、独立採算を原則とした経営を行うものでございますが、事業の絞り込みを徹底する中で、市民の暮らしに関わる施策については、積極的に取り組むこととし、所要の

財源を計上いたしております。

なお、歳入歳出予算の詳細につきましては、それぞれ御審議いただきます過程におきまして、御説明申し上げることといたします。

第11号議案から第40号議案までの30議案は、亀岡財産区ほか29財産区特別会計の令和5年度予算でございます。

予算総額は、1億百万円でございます。前年度と比較して7.1%の増額予算としております。

主な内容といたしましては、造林・育林等山林の管理に要します経費、財産区等基金積立金、関係地域における自治振興のための助成経費等を計上いたしております。

次に、第41号議案から第50号議案までの10議案は、条例議案でございます。

第41号議案の亀岡市立学校施設使用条例の一部改正は、別院中学校の閉校に伴い、別院中学校を学校施設として利用する際の使用料の規定から除こうとするものでございます。

第42号議案の循環型社会推進条例の一部改正は、受益者負担の原則に基づき、粗大ごみを市の指定する処理施設へ搬入する場合の処分等に係る手数料については、他の家庭系一般廃棄物の手数料と同様に従量制にしようとするものでございます。

第43号議案の国民健康保険条例の一部改正は、健康保険法施行令等

の一部改正に伴う出産育児一時金の額の改正及び国民健康保険法施行令の一部改正に伴う後期高齢者支援金賦課額に係る賦課限度額等の改正をしようとするものでございます。

第44号議案の総合福祉センター条例の一部改正は、効率的な施設活用を図るため、施設の利用体系を整備し、適正な料金徴収を行うため使用料等を改めようとするものでございます。

第45号議案のこども医療費助成条例の一部改正は、子育て世帯における経済的負担の軽減をより一層図るため、こども医療費助成制度の対象となるこどもの年齢上限を18歳に達する日以後の最初の3月31日までに拡充し、あわせてこども医療費助成制度の入院及び入院外に係る一部負担金の額を無料とするものでございます。

第46号議案の市立病院の使用料及び手数料に関する条例の一部改正は、亀岡市立病院に訪問看護ステーションを開設することに伴い、訪問看護事業及び介護予防訪問看護事業に係る使用料等を定めようとするものでございます。

第47号議案の都市公園条例の一部改正は、亀岡駅北土地区画整理事業、大井町南部土地区画整理事業及び亀岡駅南周辺地区まちなみ・まちづくり構想事業により設置予定の公園を新たに都市公園として規定するとともに、亀岡運動公園競技場の夜間使用に係る使用料等を設けるものでございます。

第48号議案の亀岡駅自由通路等の設置及び管理に関する条例の一部改正並びに第49号議案の自転車等駐車場条例及び駅前送迎用スペース管理条例の一部改正は、亀岡駅北土地地区画整理事業に伴い、亀岡駅自由通路等の位置を変更しようとするものでございます。

第50号議案の市営特定目的住宅条例の一部改正は、蕨田野町天川に設置している特定目的住宅1戸につきまして、老朽化に伴い用途廃止をしようとする改正及び債権関係の規定の見直しや単身高齢者の増加等、最近の社会情勢を考慮して、市営特定目的住宅への入居に際し、保証人の選任を不要とする改正をしようとするものでございます。

第51号議案の財産の取得につきましては、令和5年度に小学校等へ入学する児童に配備するタブレット端末等の購入について、議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第3条の規定により、議会の議決を求めるものでございます。

最後の第52号議案は、市道路線につきまして、4路線を認定し、4路線を変更しようとするものでございます。

以上をもちまして説明を終わります。

どうぞ慎重に御審議をいただきまして、御賛同を賜りますようよろしくお願い申し上げます。